

『 つながろう・世界と・インドネシアと 』

学校名・名前 : 芦屋市立山手中学校 ・ 田尻 伸子
 実践教科 : 英語科
 指導時数 : 9時間
 対象学年 : 中学2年生

1. カリキュラム

(1)実践の目的

- ① 世界に目を向け、関心を持ち、関係を築く一助とする。
- ② 外国語(英語)を学習することは、相手を理解し、自分を理解していただくという気持ち。「学ぶ」ことの意義を見つめなおす一助とする。

(2)授業の構成



時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 ・ アンケート実施 ・ 生徒の実態を知る	・ 「アンケート 2008 in Japan」を実施	・ アンケート
2時限目 私の出会ったインドネシア ・ 研修で訪問させていた だいた場所、出会った 人々など紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間軸で編集した写真スライドを見せながら、研修先で経験したことや感じたことを説明する。 ・ どこで出会った人々も(首都ジャカルタ、スラム街、ゲシアン村小学校、中学校、ジョグジャカルタホームステイなど)笑顔が素敵、エネルギッシュだったことを伝える。 ・ 訪問地の写真や土産品は、教室の壁に展示し、現地の様子などを説明。 ・ 世界遺産であるボロブドゥール、プランバナンを紹介。15年前の訪問とは全く違った印象を持ったことを伝え、その理由について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真(パワーポイント) ・ インドネシアの土産(英語数学の教科書、まんが、バティック染、チャンティン(ろうけつ染めのための道具)、絵葉書、影絵の人形、スラム街の人たち手作り麻バック、雑貨の花など)
3・4・5時限目 手紙を書こう ・ 英文レターを実際にイ ンドネシアへ送る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を参考にしながら、インドネシアに英文で手紙を書き、班ごとに模造紙に張り、デコレーションをして、郵送する。 ・ 下書き、清書はALTにも手伝ってもらいながら、個人で自己紹介、将来の夢などを英文で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ 辞書 ・ 下書き、清書プリント ・ 模造紙 ・ 折り紙など
6時限目 大切なものは？ ・ 「学ぶこと」「生きること」 の大切さについて考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャカルタのスラム街にある中学校で実施した「アンケート 2008 in Indonesia」の中から、「あなたの宝物は何ですか。」の答えについて、考える。 ・ スラム街の写真スライドや、中学校でアンケートを実施しているビデオや歓迎の歌のビデオを見せる。 ・ 素晴らしい歓迎ぶりや、笑顔、エネルギッシュな生活に心打たれたことを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スラム街の写真スライドやビデオをパワーポイントでまとめ、編集したもの ・ スラム街で頂いた麻のバック、廃棄品から作った雑貨の花

<p>7・8・9時限目 伝えよう、私の町</p> <ul style="list-style-type: none"> 英文で芦屋のお気に入りスポットを紹介し、インドネシアに郵送する 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、芦屋市ガイドマップを参考にしながら、インドネシアに英文で、芦屋市内にある、お気に入りの場所を紹介し、班ごとに模造紙に張り、デコレーションをして、郵送する。 自分の好きな場所の写真を撮ってくる。 下書き、清書はALTにも手伝ってもらいながら英文で書き、写真を添える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 芦屋市ガイドマップ 日本語版＋英語版 辞書 下書き、清書プリント 模造紙 折り紙など
---	--	---

別枠1

<p>ESSクラブ 山手中学校から世界へ</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドショーで山手中学校生徒の一般的な一日を英文紹介を含め制作 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動にて日本の一般的な中学生の一日をデジタルカメラで写真にし、スライドショーで英文の説明をつけ、まとめる。 インドネシアの中学校等に郵送し、相互理解に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラ 辞書
--	--	---

別枠2

<p>インドネシア人生徒とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語で作成された絵本をインドネシア語に訳し、ゲシアン村やジャカルタのスラムに郵送する 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後活動 中学3年生が家庭科の授業で作成した絵本をインドネシア語に訳す。 完成した絵本をゲシアン村やジャカルタのスラムへ郵送する。  <p>←↑ 翻訳した絵本</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵本 辞書 付箋
---	--	--

2. 授業の詳細

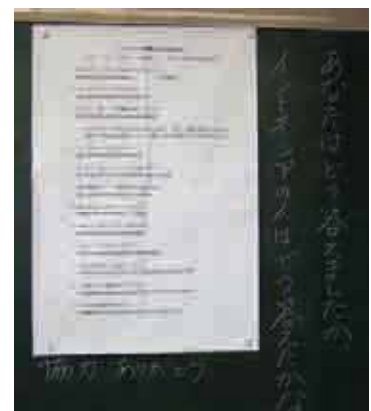
1時限目 「アンケート 2008 in Japan」実施

■目標

生徒の実態を知る

■内容

- ① 現地に持参した「アンケート 2008 in Indonesia」（資料1）（事前に貞松先生中心に作成し、現地で実施したもの）をもとに、「アンケート 2008 in Japan」（資料2）を作成。
- ② 結果
ほぼ全員が日本のことが好き。
多くの生徒が、インドネシアについては名前は聞いたことがある程度。



中には小学校時代にインドネシア人の級友がいた生徒もいる。
宝物について: 家族、友人、命、が多くその他、携帯、部活の道具、パソコンなど持ち物があった。

2時限目 私の出会ったインドネシア

■目標

- ・研修で訪問させていただいた場所、出会った人々など紹介
- ・生徒が「出会い」って「すばらしい」と感じる

■内容

- ①教室に日本とインドネシアが載っている東南アジアの掛け地図、地球儀、ガムラン音楽を流す。
生徒が教室に入った時点から、授業への興味がわく雰囲気を作る。

地図を見ながら確認:

- ・インドネシアと日本の位置
- ・インドネシアは日本の約5倍もの大きさがある
- ・多くの島それぞれに独自の文化や言語を持つ

→これから見るスライドは、今回の研修で訪ねたところを紹介するものであるから、これまでにインドネシアにいたことがある人やインドネシア人の友達がいいた人が知っているインドネシアとはとは違う事も出てくる可能性がある。

あくまでも「私が出会ったインドネシア」であること

- ・日本は南北に長い島国、インドネシアは東西に広がる島国
- ・日本には時差がなく、季節の移ろいがある
- ・インドネシアは時差があり、ほぼ全域が亜熱帯気候である。

- ②時間軸で編集した写真スライドを見せながら、研修先で経験したことや感じたことを説明する。

- ・HAT神戸の朝焼け: JICA兵庫宿舎窓からの景色

→対象生徒が中学1年生時の校外学習で、HAT 神戸を訪問している。生徒の経験と結びつけることで、より身近に感じ、興味を持って以後のスライドを見ることができた。

- ・スライドの編集を時間軸にした理由

→どんな研修をしてきて、何を感じ、何を学びとってきたかを、知ってほしいという願いから、研修を行った順にスライドを並べた。

- ・事前に本研修に行くことを生徒に伝え、インドネシアへのお土産として、生徒の書写作品やうちわの提供を呼びかけ、持参していた。現地の人たちが生徒作品やうちわを持った写真は、本当に自分が提供したものが、役に立ったと、歓声の声が上がった。



地図を見ながら確認



スライドを見ながら説明



生徒寄贈の書写とうちわを持って



ホテルと地元の人たちの家

作品提供の協力にお礼を伝える。

- ・ジョグジャカルタで宿泊先のホテルとすぐ近くに住む人たちの集落との生活実態の差が伝わる写真
- ・ジャカルタの高層ビル街とスラム街の対比した写真。
- ・ゲシアン村小学校での歓迎、ホームビジットでの昼食歓迎、スラムでの歓迎の合唱の写真で、各地での歓迎ぶりに圧倒され感謝したことを伝える。
- ・ゲシアン村の小学校、ホームステイ先の子供が通うカトリック系の私立中学校、ワテス中学校、スラムの中学校のようす、校舎、教室、生徒、授業風景などの写真から、日本との相違を気付かせ身近に感じさせる。

- ・日本のアニメ、意味不明な日本語ブランドの写真から日本文化のアジア進出について感じさせる。また、日本でアルファベット文字のついた商品を多く見かけるが、意味が通じないものや英語として、おかしい意味になる場合もあることを伝え、身の回りの品について目を向けさせる。

③訪問地の写真や土産品は、教室の壁に展示し、現地の様子などを説明する。

中学2年生の英語数学の教科書：日本の教科書内容と比較し相違について気付かせる。

パティック染スカーフ、チャンティン(ろうけつ染めのための道具)、影絵の人形：インドネシアの文化の一部を伝え、日本にもまた他の国にもそれぞれ独特な高い文化があることに気付かせる。

スラム街の人たち手作り麻バック、雑貨の花：ゴミの中から廃品を利用し、手作り商品として売り、現金収入を得ていることを伝え、その技術の高さにも目を向かせる。

- ・世界遺産であるボロブドゥールの1995年購入の絵葉書と今回購入した絵葉書：ほぼ同じ角度で撮影された2枚の絵葉書から、「開発」について考えるきっかけとする。1995年購入のものは、遺跡の周囲に青々とした水田が広がっている。2008年購入したものは、水田の代わりに茶色い地面に変わっている。(ボロブドゥールは1991年世界遺産として登録されている。)



展示品の説明

■生徒の感想より

- ・インドネシアのみんなは、とても幸せそうでした。そして、たくさんの日本文化があることを知りました。だから、日本とインドネシアの文化を交換していきたいです。
- ・インドネシアの人は日本語や日本のものが好きなんだなあと思いました。日本人としてはすごくうれしいです。



スラム街で出会った子どもたち

- ・インドネシアの人と文通してみたいなあ。
- ・正直、日本から出たくないと思っていましたが、外国にも行ってみたいなあと思いました。
- ・インドネシアの同級生の人たちと遊んでみたいと思いました。
- ・インドネシアに行ってみたいです。
- ・日本が支援しているなんて、全然知らなかったです。
- ・インドネシアでは、教科書が一人1冊もらえないことを初めて知りました。
- ・教科書がレンタルだということにびっくりしました。
- ・日本はアメリカとかだけでなく、南のほうまで文化とかが通じているのは、意外だった。

- ・インドネシア産の蚊取り線香がなんで、インドネシアの人が知らないのかが疑問に思った。あと、日本産の自分たちが全く知らないものが、他国に輸出されているのかも、知りたくなった。
- ・インドネシアというのは、今まで、南にあるということしかわからなかったので、自分の中の世界が広がった気分で、よかったです。
- ・すごく貧しい街から、ちょっと離れたところに、大きなショッピングモールがあるなんて、びっくりしました。
- ・僕は一度インドネシアに行ったことがあって、行ったところとは違っていたので、こんな所もあるんだなあと思いました。
- ・トイレの水が濁っていたのがなぜだと思った。
- ・貧しくてもゴミをリサイクルしていく生活がすごく、その中でも、笑顔で生きていけるのが、すごかった。



3・4・5時限目 手紙を書こう

■目標

英文レターを書き、インドネシアへ郵送し、インドネシアに友達を作ろう。

■内容

- ① 教科書 New Horizon2(東京書籍) 28～31ページ、74～75ページの内容把握
- ② 教科書を参考にし、インドネシアに友達を作る目的で英文レターを書く。
- ③ 手紙には自己紹介、将来の夢について、相手(またはインドネシア)について知りたいことは必ず書き、その他は各自工夫する。
- ④ 下書き完成后 ALT に添削してもらい、その後、清書する。添削については、なるべく生徒の原文を生かすようにする。
- ⑤ 清書はペンでていねいに書くよう、うながす。
- ⑥ 5～6人の生活班で、一枚の模造紙に清書を張り付ける。班全員で撮った写真も載せる。郵送先で簡単に掲示していただくため。
- ⑦ 模造紙には「LETTERS FROM JAPAN」とタイトルを書くこと。
- ⑧ 受け取った生徒が興味を持って読めるよう、模造紙の余白に、イラストや折り紙を使ってのデコレーションをするなどの工夫させる。
- ⑨ 送付先:
ジャカルタのスラム街を案内してくれたペンタさん
ゲシアン村 京都大学東南アジア研究所の濱元さん
ワテス第1中学校 青年海外協力隊 鈴木さん
ジョグジャカルタ 私立カトリック系中学校 SMP Stella Duce 1 Yogyakarta 校 Drs. C. Haryono 校長



郵送した手紙

6時限目 大切なものは？

■目標

「学ぶこと」「生きること」の大切さについて考える。

■内容

- ① スラム街の写真スライドや、中学校でアンケートを実施しているビデオや歓迎の歌のビデオを見せる。
- ② 素晴らしい歓迎ぶりや、笑顔、エネルギッシュな生活に心打たれたことを説明する。
- ③ ジャカルタのスラム街にある中学校で実施した「アンケート 2008 in Indonesia」の中から、「あなたの宝物は何ですか。」の答えについて、考えさせる。
- ④ 5～6人の班になり、「大切なもの」を何と答えたか、意見を交換させる。
- ⑤ 班で話し合い、これだと思う答えを学級全体に発表させる。



授業風景

- ⑥ スラム街の中学生が答えた「大切なもの」は「知識」。
それは、今の生活(＝スラム街での生活)から脱却するには、豊かな知識が必要だと彼女は考える。
- ⑦ ALTから英語で「学ぶこの」の重要性和「学びたくても、学べない」子供たちが世界には多くいること、幅広い知識を身につけることの大切さを伝える。



スラム街の中学校



スラム街での歓迎の合唱

■生徒の感想より

- ・今日の英語の授業は、とても考えることが多いと思いました。日本人の僕は、勉強はあんまり好きではないけど、インドネシアの人は将来、働けるために、一生懸命勉強するので、勉強は大切だと言っていました。彼女は僕らと同じ年なのに、彼女たちのほうが、もっと大人だと思いました。マイク先生(＝ALT)の英語はとても頭を使って考えました。未来はだれにもわからないので、大切にしていきたいです。
- ・班でいろんな大切なことを探っていくと、私たちの周りには、大事なものがたくさんあるんだなと感じました。
- ・いつもこのクラスは結構授業中にふざけたり、すごくしゃべっていたりすることがあるし、授業でも集中できてない時もあります。でも、勉強したくても、仕事をさせられて勉強したくてもできない人もいて、今、簡単に勉強できることを幸せに思わないといけないし、勉強や授業を大切にしなければいけないなと思いました。

ALTからのメッセージスピーチ



- ・未来はどうなるか、だれにもわからないけれど、今、私たちがたくさんの知識を持っていれば、きっと世界は良い方向に変わる。これからもっと真剣に、知識を増やしていこうと思います。
- ・外国では、勉強したくてもできない人もいますが、日本では勉強ができるのに、嫌がったりして、手を抜いたりする人もいますので、せつかくできるのに、もったいないことだと思いました。やりたくない人が無理にやらず、やりたい人が代わりにできたらいいと思いました。やりたい人もできるようになってほしいです。

- ・「知識」が一番大切だと聞いて、少しビックリしました。思いもよらなかった。勉強は好きじゃないけど、せつかく勉強ができる環境なので、もう少し勉強を頑張ってみようかと思えます。
- ・写真を見ていると、みんな素直で素敵な笑顔をしていました。とても幸せそうに。でも、大切な物の答えが、「知識」だったことには、とても驚きました。生きていく中で、1番大切なものを「知識」と言うほど、生活が大変なのに、とても楽しそうに笑っていた。あの人たちの生き方は、素敵だなと思いました。
- ・彼女の宝物が「知識」だったことに深く共感しました。私は、この「知識」とは、「勉強」といった類のものというよりは、生きるための「知恵」のようなものかなと考えました。
- ・私は、ビデオを見て、音楽を歌っているのに感動しました。とても素敵な歌でした。また、一番大切なものが、「知識」というのは、何となくわかるような気がしました。もっといろんなことを、知りたいので、実際に話してみたいなあ、と思いました。
- ・一人ひとり、力がないけど、たくさんの人々が集まれば、何かできると思う。だから、一人ひとりが集まったとき、役に立つために、今を大切に、勉強して、友達を作って、楽しいことをすべきだと思う。

7・8・9時限目 伝えよう、私の町

■目標

芦屋のお気に入りスポットをインドネシアの友達に紹介しよう。

■内容

- ① 教科書 New Horizon2(東京書籍) 66～67ページの内容把握

- ② 市役所広報課から、芦屋市ガイドマップ、芦屋市国際交流協会から芦屋市ガイドマップ英語版を生徒数にいただく。
- ③ 芦屋市ガイドマップ日本語版、英語版を参考にしながら、芦屋市内にある、お気に入りの場所を紹介する英文を下書きする。
- ④ 下書き完成後 ALT に添削してもらい、その後、清書する。
添削については、なるべく生徒の原文を生かすようにする。
- ⑤ 清書はペンでていねいに書くよう、うながす。
- ⑥ 内容に合う写真を用意して、清書用紙に張るか、その場所の絵を丁寧に色つきで描く。
- ⑦ 5、6 人の生活班で、一枚の模造紙に清書を張り付ける。
レポートを書いた班員の写真を張る。
郵送先で簡単に掲示していただくため。
- ⑧ 模造紙には「ABOUT MY CITY IN JAPAN」とタイトルを書く。
- ⑧ 受け取った生徒が興味を持って読めるよう、模造紙の余白に、イラストや折り紙を使ってのデコレーションをするなどの工夫をさせる。
- ⑨ 送付先：
ジャカルタのスラム街を案内してくれたペンタさん
ゲシアン村 京都大学東南アジア研究所の濱元さん
ワテス第1中学校 青年海外協力隊 鈴木さん
ジョグジャカルタ 私立カトリック系中学校
SMP Stella Duce 1 Yogyakarta 校 Drs. C. Haryono 校長



3. 成果と課題

- ① なぜ学ぶのか、英語はなぜ必要か、生徒に尋ねられることがある。定期考査に向けてのみが学習の目標となりがちな中学生に、実際に教師が経験し、感じたことを話し、その人たちとつながるために、手紙を書く（＝英語を学習する）ことは、生徒の学習意欲を予想以上にかきたて、全員が課題に取り組むことができた。英語の授業に対して興味関心が低いと思っていた生徒も含め、目を輝かせ、自分の伝えたいことを、どう英語で表現しようかと熱心に考え、質問し課題を仕上げることができた。
- ② 生徒は相手からの返事を期待している。生まれたときから携帯電話やインターネットに囲まれて暮らしている中学生は、手紙を出せば、すぐに返事が来ると期待している。しかし、相手にも生活のリズム、学校のカリキュラム、行事などの違いがあることを、ていねいに説明し、見返りを期待するのではなく、つながりを持つとうとする気持ちを大切にしていこうと、繰り返し説明した。

4. 最後に

- ① 本研修から帰国後すぐにロシア・グルジア戦勃発、NGO 職員殺害ニュースが飛び込んできた。人と人が結びつき、仲良くなることは、世界平和への小さな、しかし大切な一歩につながっていると考える。将来を担う中学生が、一人でも多く他国の人と結びつき、日本と友好的な関係を結んでいく架け橋になってくれることを願う。
- ② 今回多くの方々のご尽力があり、この研修に参加させていただき、観光ツアーではいけない場所へも安全かつ、友好的に訪問できたことを感謝する。生徒たちには、個人では決してスラム街へは足を踏み入れてはいけないこと、残念ながら、それは命にかかわる危険と隣り合わせである場合が多いことを、最後に伝えた。

資料1 現地、インドネシアで実施したアンケート

アンケート 2008 in Indonesia

年齢()才 Umur()tahun 男/女 Laki-laki / Perempuan

- 1 あなたは、インドネシアが好きですか？はい/いいえ
Apakah Anda suka Indonesia? Ya / Tidak
- 2 インドネシアのどこが好きですか？
Apa yang Anda suka tentang Indonesia?
- 3 あなたは、将来、どんな職業に就きたいですか？
Apa yang Anda mau kerja pada masa depan?
・先生 Guru ・公務員 Pegawai negara(negeri) ・医者・看護師 Dokter・Perawat
・芸人 Penyanyi/ Pelakon ・スポーツ選手 Pemain olahraga ・その他 Lain-lain
- 4 今、一番ほしいものは何ですか？
Apa yang Anda mau sekaligus?
- 5 今、楽しい（熱中している）ことは何ですか？
Apa yang Anda merasa senang melakukan sekarang?
- 6 学校の勉強の中で、一番得意な科目は何ですか？
Apa yang Anda suka pelajaran di sekolah?
- 8 日本を知っていますか？ はい/いいえ
Apakah anda tahu Jepang? Ya/Tidak
- 9 日本のことで知っていることは何ですか？
Apa yang Anda tahu tentang Jepang?
- 10 行ってみたい国はどこですか？
Negara manakah yang ingin anda kunjungi?
- 11 自分を色に例えたら何色？ なぜ？
Seandainya anda adalah warna, warnaapakah yang anda pilih?
- 12 一番ほっとする場所はどこですか？
Dimanakah tempat yang paling anda merasa nyaman perasaan?
- 13 あなたの宝物は何ですか？
Apakah harta (barang yang paling berharga) bagi anda?

資料2 日本の中学生に実施したアンケート

アンケート 2008 in Japan

年齢()才 男 / 女

1 あなたは、日本が好きですか? はい / いいえ

2 日本のどこが好きですか?

3 あなたは、将来、どんな職業に就きたいですか?

- ・先生 ・公務員 ・医者・看護師・芸能人 ・スポーツ選手
- ・その他 Lain-lain

[

]

4 今、一番ほしいものは何ですか?

5 今、楽しい(熱中している)ことは何ですか?

6 学校の勉強の中で、一番得意な科目は何ですか?

8 インドネシアを知っていますか? はい / いいえ

9 インドネシアのことで知っていることは何ですか?

10 行ってみたい国はどこですか?

11 自分を色に例えたら何色? なぜ?

12 一番ほっとする場所はどこですか?

13 あなたの宝物は何ですか?